

## 乗越議員、大道議員が聞く 認定こども園における 環境保育の取り組み

表紙写真／話をお聞きした皆さん

地球温暖化やオゾン層破壊など、地球規模での環境問題が深刻化しています。人類の持続可能な発展の基盤を整え、将来世代にこれを継承していくための環境教育を「生活」、「食育」、「自然」の視点から進めている愛育園の方々にお話を伺いました。

# 地球環境と、子供たちの未来

**Q 環境保育の取り組みのきっかけと、その内容を教えてください。**

**円奈理事長** 京都議定書あるいはパリ協定にある、世界全体で支え合い、思いやらなければこの地球環境の問題は解決しない

という指針がきっかけとなり取り組みを始めました。毎週水曜日のごみ収集日を、もったいない日、「もっちゃんでー」として、リサイクル、自然、食育、この3つの観点で環境保育を進めています。子どもたちと一緒に保

育をつくり上げていく上では、子どもの主体的な言葉は一人残らず大事にして、楽しく・継続してやるという方向性で取り組んでいます。

**伊藤園長** 教育目標として自然と触れ合うこと、五感を通して豊

かな感性を身につけることなどに重点を置いています。環境保育の基礎・基本は、乳幼児期に自然とたくさん触れ合うということなので、そういったことを主に取り組みように頑張っております。

**赤尾教諭** 給食で残った野菜くずと瓶、ペットボトルを土に埋めて比べてみるということをやりました。1カ月たって掘り返してみると野菜くずだけがなくなっている。理由はわからなく

### プロフィール



社会福祉法人愛和福祉会  
理事長 円奈 千鶴子さん



愛育園 園長  
伊藤 京子さん



愛育園 主幹保育教諭  
赤尾 安啓さん



愛育園 事務長  
円奈 芳夫さん



- ① インタビュー風景
- ② 園での取り組みが載っている「れいんぼう通信」
- ③ 子どもたちが、野菜を育て、収穫する「なかよし農園」
- ④ 子どもたちの作品「ちきゅうとなかよし」
- ⑤ 裸足で自然と触れ合える芝生の庭

でも、その変化が子どもの興味、関心になって、その後の意欲と思考力というものにつながりますし、ごみの分別処理の大事さにも気づいていくと思います。

**Q 子どもたちの反応を教えてください。**

**赤尾教諭** 年長組の発表会で野菜づくりを題材にしたことがあります。水やりをしたり、草抜きをしたりというのを劇の中に入れて表現をして、世話をするこでちゃんと大きくなって収穫ができるんだよという内容ですが、子どもたちもすぐ生き生きと表現をしていました。

**Q 保護者の反応について教えてください。**

**円奈事務長** 子どもたちがペットボトルや、牛乳パックなどの廃品を利用しておもちゃを作ったり、リサイクルで何かに利用できるんじゃないかという感覚が身についてきて、子どもの成長につながっているということを何度か聞いたことがあります。

**Q 今後の取り組みについて教えてください。**

**伊藤園長** 環境、自然に関心を持つという経験は、自分の命や周囲のさまざまな生命を大切にするという、しなやかで優しい心を育てていると思うんですね。従って、自然とかかわる機会をより多く持っていきたいということと、自然は美しいばかりではなくて、時には災害を招いたりとか命を奪うこともありまますので、危険から身を守ったり、また、自然災害に強いまちづくりをしてくれるような大人になってくれればうれしいなと思うところです。

**円奈理事長** 何にしても、自分で判断をして自分で行動する子どもに育ってくれたらと思います。卵の殻をリサイクルして作った「ちきゅうとなかよし」という作品が園の玄関に掲げてあります。これから未来の子どもを育てていく上で、地球環境も胸におきながら、保育を日々していきたいと思えます。